

管機連Daily News

2025年11月20日(木)

« 今日の主なニュース »

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆派遣時給、10月は0.5%高1710円 38カ月連続プラス

・人材サービス大手のエンが発表した10月の派遣社員の募集時平均時給は、三大都市圏(関東・東海・関西)で前年同月比9円(0.5%)高い1710円だった。2014年の調査開始以来の最高を更新。前年を上回るのは38カ月連続で緩やかな上昇傾向が続いている。同社の求人情報サイト「エン派遣」の掲載情報をまとめた。

◆上場企業の26年3月期、増益視野に トヨタなど上方修正で減益幅縮小

・上場企業が米関税影響の逆風をはねのけ、2026年3月期の増益を射程圏にとらえた。19日までの25年4~9月期決算発表時に全体の3割が業績予想を上方修正し、純利益見通しは前期比2%減と従来予想(8%減)から減益幅が縮小した。人工知能(AI)需要を背景に電機の上方修正が目立った。為替の円安も追い風。

◆「AI」で脚光の建設株 11月に入り上昇鮮明、大成建設は最高値

・東京株式市場で建設株に脚光があたっている。19日は大成建設が株式併合考慮後の上場来高値を付けるなどそろって値上がり。好採算の工事が増えて利幅が拡大し、各社とも今期業績は堅調だ。人工知能(AI)需要が高まるなか、データセンターや半導体工場の工事も活況で、AI普及の恩恵を受ける銘柄として関心が向かう。

« 業界ニュース »

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆柏崎刈羽原発、新潟県知事が再稼働容認へ

・東京電力ホールディングスの柏崎刈羽原子力発電所6号機の再稼働を巡り、新潟県の花角英世知事が容認する意向を県幹部に伝えられたことがわかった。21日にも記者会見を開き表明する。自身の判断を県議会に諮り、県議会も賛同すれば国に再稼働容認を伝える。原発再稼働が実現すれば、東電では福島第1原発の事故後で初となる。

◆機械受注2.1%減 7~9月、4四半期ぶりマイナス

・内閣府が発表した7~9月期の機械受注統計によると、設備投資の先行指標とされる民需(船舶・電力を除く、季節調整済み)は前期比2.1%減の2兆7158億円。4四半期ぶりにマイナスに転じた。9月末時点の10~12月期の受注見通しは前期比0.2%増。7~9月期は非製造業が5.0%減。通信業や金融・保険業で電子計算機などが受注減。

◆太陽電池市場、「初期費用ゼロモデル」は2040年に4倍へ 富士経済調べ

・富士経済は太陽電池関連市場の調査結果を「2025年版 太陽電池関連技術・市場の現状と将来展望」として発表。調査によると、国内市場では再生可能エネルギー政策の推進や電気料金の高騰を背景に、「住宅向け初期費用ゼロモデル」が2040年度に2024年度比4.0倍の1278億円に達する見通し。関連する分野での成長が期待されている。

« 注目商品 »

■LIXIL、室内ドア向けスマートロック「Ohea Lock」

・自室に手軽に後付けし、スマートフォンでのドアの施解錠を可能にするLIXILの室内ドア向けスマートロック「Ohea Lock」を発売。在室中の集中できる空間作りや、入室制限による安全とプライバシーの確保で、快適で安心な日々の暮らしにアップデート。



■ボッシュ、「BB-pro」から2in1コードレスインパクトドライバー

・プロ基準の安全性・作業性・耐久性を満たしたハイスタンダードシリーズ「BB-pro(Bosch Basic-pro)」の新ラインナップとしてボッシュ独自の2in1コードレスインパクトドライバー「GDX 18V-285」と「GDX 18V-285H(本体のみ)」を発売。独自の2in1ビットシステムを搭載。



■薪とペレットどちらも使えるハイブリッドストーブ

・薪来歩は、薪と木質ペレットを兼用できるハイブリッドストーブを発売。デンマーク・Aduro(アデュロ)社が開発したハイブリッドストーブ6機種をラインアップ。薪とペレットの両方を燃料として使えるため、平日はペレットで暖をとり、休日は薪を使い分けできる。

